

## 特別支援教育の推進 「つなぐ」「いかす」「支える」

岩手県の特別支援教育の方向性を示す「いわて特別支援教育推進プラン(2019～2023)」は、これまでの推進プランの基本理念である「共に学び、共に育つ教育」を継承しつつ、新推進プランは「つなぐ」、「いかす」、「支える」の3つのキーワードごとの施策の方向性と具体的施策により構成されています。この理念に基づき、県南教育事務所では、「支援を必要とする児童生徒一人一人に対する教育的ニーズにきめ細かく応える支援体制を整備し、個々の力を伸ばしていく」ことを目標として、教育的ニーズに応じた指導・支援体制の充実のための2つの研修会を実施しました。

### つなぐ

～就学から卒業後までの一貫した支援の充実～

### いかす

～各校種における指導・支援の充実～

### 支える

～教育環境の充実・県民理解の促進～

## 特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅰ 一関地区合同庁舎 (R3.6.7)

今年度、初めて特別支援教育担当になった先生方を対象とした研修です。(34名参加)初めに一関市立千厩小学校の「知的障がい学級」の授業をVTRで参観しました。児童の実態に応じた支援や目的意識、見通しをもたせることの大切さについて学ぶことができました。グループ協議では障がい種別に分かれ、先生方の悩みについて支援学校等の先生方から助言をいただき、明日からの指導に生かせる様々な支援方法について理解を深めることができました。



単元名「修学旅行へ行こう」(生活単元)  
子ども達は、買い物の手順やマナーなどを学びました。



### 『障がいの基本理解と個別の教育支援計画について』

(三浦由紀子 特別支援教育エリアコーディネーター)

- 障がいとは、個人因子のみではなく環境との相互作用で引き起こされるものである。
- 学校における「合理的配慮」は、対象となる児童生徒の実態や、実際の場面に応じて工夫し、活用することが大切である。
- 「個別の教育支援計画」は、関係機関(教育・医療・福祉・労働)等が連携して一人一人のニーズに応じた支援を、幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して行うことを目的としている。学校だけでなく、家庭生活や地域での生活も含めて長期的な視点で作成・活用することが大切である。

## 特別支援教育コーディネーター研修会 一関地区合同庁舎 (R3.6.28)

各校で特別支援教育を推進している先生方を対象とした希望研修に、43名の先生方が参加しました。本研修の主なテーマである「教育と福祉の連携」について考える貴重な研修会になりました。



### 『特別支援教育コーディネーターの役割』

- 【一関市立山目小学校 井上美由紀 指導教諭】
- 校内における役割(校内委員会のための情報収集・担任への支援・校内研修の企画支援)
- 外部の関係機関との連絡調整等
- 保護者に対する相談窓口  
(保護者との相談の場合には複数で対応)
- 特別支援教育全体計画を基盤に「チーム学校」として対応していくことが大切である。

### 『教育と福祉の連携』

- 【山崎 竹美 一関市役所福祉課主任主事】
- 【佐々木理恵 一関障害者生活支援プラザ相談支援専門員】
- 【三浦由紀子 特別支援教育エリアコーディネーター】
- 家庭と教育と福祉の連携「トライアングルプロジェクト」の一層の推進が求められている。(教育委員会と福祉部局、学校と障害児通所支援事業所との関係構築の「場」の設置など)
- 「放課後等デイサービス」では、障がい児に対し、放課後等において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供している。
- 市町村が設置している基幹相談支援センターにおいて「相談支援事業」を実施。基本相談では必要な情報提供、障がい福祉サービスの利用支援等を行っている。計画相談では障がい者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けてきめ細かく支援している。

### 『参会者の感想』

- 行政の仕組みの中に、こんなに個人を支えてくれる制度・施設があることを知り、ありがたいことだと思いました。保護者の方とも情報を共有し、子どもの可能性を広げていけたらと思います。
- 疑似体験(読み・書き・聞くことの困難さ体験)をして、日頃の指導を反省させられました。子どもにつらい思いをいろいろとさせてきた気がしました。今後の指導に生かしていきたいと思いました。

